

## 巻頭言

# 新発田のまちなかの賑わい創出 「サマーフェスティバル2023」への出店

長坂 康代

コロナ禍を経て4年ぶりに開催された、7月29日の新発田商店街の「サマーフェスティバル2023」に、本学からは8団体が出店した。当日は「敬和エリア」を設けてもらい、趙ゼミ1店舗、主濱ゼミ2店舗、大岩彩子准教授担当「児童英語」1店舗、長坂ゼミ4店舗で、総勢50名超の学生が出店に関わった。アルバイト学生たちや会場に遊びに来てくれた学生たちを含めれば、100名以上が参加した賑やかな空間になった。

それぞれ出店内容は異なったが、共通するのは、大学を飛び出して新発田の中心地・商店街でゼミ活動や授業を活かした取り組みを行ったということである。各教員が詳述するが、趙晤衍教授による趙ゼミは、ゼミで関わっている粟島浦村の特産品（魚や粟島味噌など）を販売した。主濱ゼミは、2年生のゼミのほか、主濱祐二准教授が1年生前期の基礎演習を履修した学生にも声かけして1年生有志も飲食販売を行った。大岩准教授担当「児童英語」は、前期授業の発表の場も兼ねた集大成として、子ども向けイベントを開催した。長坂ゼミも、継続してきたイスラームの学びを展開した。

本学がサマーフェスティバルに参加するにあたって、山口泰明実行委員からご連絡いただき、4月下旬の第2回目の運営会議から筆者と学生2名（3年生・澤真、張涵）の3名で陪席させてもらってきた。商店街の若手経営者を中心に、産官学民の主要メンバーが集まる会議では、毎回白熱した議論が展開され、その場にいる学生たちは「会議としての意義がある」と感じとったようである。

その流れをくみ取り、5月末に学内での出店申込みを締め切った後、澤と張が学生代表者として、学内打ち合わせの場を2回設定した。各担当教員に働きかけて各団体から代表学生を選出してもらい、学生間でも連絡漏れがないように徹底した。

第1回学内打ち合わせ（6月14日・昼休み）では、6月末の出店代表者会議についての情報共有、各店代表学生間のLINEグループ作成、飲食出店団体の検便提出の確認、借用テーブルとパイプ椅子についての確認、当日の写真撮影についての確認を行った（写真1参照）。

第2回学内打ち合わせ（7月14日・昼休み）では、当日の最終確認をして、当日着用してもらう大学オリジナル法被の配布をした。

こうした各店代表学生間での連携で、学外での出店代表者会議や、当日の借用テーブ

ルなどの搬入の手伝いもスムーズに行うことができていた（写真2参照）。

また、小林大輔実行委員長の計らいで、本学バドミントン部の学生数名がイベント当日の実行委員の手伝いとしてアルバイト雇用してもらった。運営会議にアルバイトの代表学生（4年生・内田康介）も陪席させてもらい、その場で挨拶したこともある。内田の緊張した様子の挨拶を受けて、終始和やかに接してくれた実行委員のメンバーの様子をみていると、地域に関わるあらゆる場面で学生たちを育ててくれるのだと、あらためて感じた。

当日は、怪我なく事故なく無事終わることができ、安堵している。この日を迎えるための、趙教授、主演准教授、大岩准教授の学生指導に関する労力は計り知れない。これを一過性で終わらせないためにも、2019年度に引き続き、教育実践の一例としてサマーフェスティバル参加の報告をするのである。そして、私たちは、今後も地域・新発田と関わり、賑わいの創出に寄与することを意識して教育活動に取り組んでいきたいと考えている。

最後に、準備段階から学生たちに根気よく向き合ってくれた小林実行委員長および本学担当の山口実行委員をはじめとするサマーフェスティバル実行委員に対し、この場を借りて厚くお礼を申し上げる。あわせて、本学での雑務を一手に担い、陰で担当教員と参加学生たちを支えてくれた本学の皆川靖教務課長代理にも感謝の念を表したい。



写真1 学内打ち合わせ（澤・張）



写真2 当日の学生間での打ち合わせ